

「颯娃高の架け橋」となる

～景色がえいまち 縁起がえいまち 人がえいまち～

1 学校名

鹿児島県立颯娃高等学校

2 学年・人数

1, 2年生 普通科(計7名)

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

平成30年4月～平成31年2月 総合的な学習の時間(本校教室等)

(2) 発表の日時・場所

平成31年2月8日(金)校内学習発表会(本校パソコン室)

平成31年2月27日(水)いせえび荘で開催されたおこそ会での紹介

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

おおのだけじんじゃ
大野岳神社 (仁王像, 狛犬, 鳥居) 元禄時代

ばんどころぼなしぜんこうえん
番所鼻自然公園 (南九州市颯娃町) 明治時代

(2) 特徴

元禄時代に作成された仁王像は明治初めの廃仏毀釈によって一体が頭部と腕をはきされることとなるなど、神仏混淆の歴史を知る史料であり、もう一体も不屈の仁王像として親しまれている。また、狛犬は仁王像よりも古い歴史を持っている。番所鼻自然公園は、日本地図作成のため全国を実測した伊能忠敬が「天下の絶景」と絶賛した景勝地である。数十万年前の火山活動とその後の浸食で形成された天然の岩礁で、自然にできた「海の池」もある。その中には「竜宮城への入り口」があったと伝説が残っている。

5 保存会や地域との連携の具体

「NPO法人颯娃おこそ会」のメンバーの方々にお話を聞く機会を設定し、地域での取組の説明等を受けた。現在私たちが作成している動画を見ていただき、アドバイスも受けた。NPO法人颯娃おこそ会は、地域総力戦の町おこしを掲げ、故郷である南九州市颯娃町をいつまでも住みたいと思える魅力あるまちとすることを目指し活動している団体である。まちおこし焼酎の生産や、グリーンツーリズム、文化事業、そして昨今は釜蓋神社や番所鼻公園、大野岳を起点とした観光まちおこし活動に力を入れている。本校では、貴法人と協力して古民家再生などのプロジェクトを行ってきた。また、南九州市役所とも連携を取り、お茶の生産について話を聞いたり、工場を紹介してもらったりした。

6 活用の取組の工夫した点

まず地域が抱える課題を学び、颯娃町が地域おこしに力を入れていることがわかった。私たちももっと、地域の中に入り、地域のことを知り、南九州市颯娃町の素敵なところを知ってもらいたいという思いで、高校生の視点で南九州市颯娃町を発信してみたいということになった。「これを見たらきっと好きになるPR動画」を作成することを決め、作成に取り組んだ。何をコンセプトに作るか、どこを撮り、どう表現するか話し合いを重ね、実際に地域に出かけて写真を撮ったり、話を聞いたりしに行った。校外活動は10回実施、大きな活動としては、9月には番所鼻公園、いせえび荘、11月知覧茶工場(有限会社 下窪勲製茶)である。ただPR動画を作成しても面白くない。例えば、YouTubeに投稿したときに、多くの人に見てもらって、南九州市颯娃町に来たいと思えるようなものを作ろうと工夫した。絵が得意な生徒にイラストを描いてもらってそれを入れ込み、名勝の説明を普通に行うだけではなく、「えい語」で説明する音も入れて、同時に流すようにした。その際、「えい語」を地域のおじいさんやおばあさんに聞く機会も設けた。このように生徒主体でアイデアを出して動いていった。

7 取組の様子(研究発表, 創作劇等)



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

- やってみて本当に良かったと思っています。地域のことを知りたい、何か地域のためにやりたいという気持ちがありましたが何ができるか分からなかった中で、PR動画を作ろうと考え、地域の中に入り、様々な経験をすることができました。
- この1年間、色々な経験をさせていただきました。その中で企画する力、実践する力、コミュニケーションをとる力などが向上したという実感があります。何よりとても楽しかったです。
- 私たちが生活している南九州市の良さを改めて知ることが出来ました。そして大切にしたいと思いました。もっともっと知りたいと思いました。
- 作ったものをどう還元するか、まだ試作中である。おこそ会には見ていただいたが、この後どうするか。インターネットやマスコミなどを利用していろいろな方々に見てもらえるようにしたい。そうなった場合、もう少し内容を吟味しなければならない。
- 教職員が主導するのではなく、生徒が主体的に考え、動くことを尊重できた。私たちは生徒が考えたことをいかに実現するか、どうアドバイスするかという姿勢を徹底した。最初はありたきりな内容であったが、段々と企画力も身につき、お互いがお互いにプレゼンするようなこともあり、この1年で大きく成長した姿が見られた。